



特集

農村・農業の 大切さ、ありがたさ。

5月は市内のあちこちで田植えの様子が見られるなど、農村に活気がみなぎる時期です。

普段から当たり前のように見てきた農村風景、そしていつもの食卓にかかせないお米や野菜を供給してくれている農業ですが、改めて着目してみると私たちにさまざまな恵みをもたらしてくれていることに気付かされます。

今号では、私たちにとって身近な農村や農業がどのような恵みをもたらしてくれているのか、そして農村地域の高齢化や農業の担い手不足の中で、農村や農業の営みを続けていけるよう支援する事業やその事業を活用して取り組んでいる方たちを紹介します。



第32回 矢板の四季観光写真コンテスト入選作品「山間の休耕田と田植え」

「多面的機能を守る。」

農村や農業は、私たちが生きていくのに必要な米や野菜などの生産の場としての役割を果たしていますが、それだけではありません。

農村や農業には、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成のほか伝統文化の継承などさまざまな機能があり、『農業・農村の有する多面的機能』と呼ばれています。



黒田 禎 農林課長

具体的には、田んぼに水が入ることでの貯水機能の維持や、地域のみんで活動することで地域コミュニティの醸成が図られるなど、私たちに大きな恩恵をもたらしてくれます。

豊かな自然環境が広がり、農業が主要な産業の一つである本市にとって、これらの機能を維持するための農業の担い手育成・確保は直近の課題です。

そこで市では、「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」に基づく、「矢板市日本型直接支払事業」を通して、農業・農村の多面的機能の発揮のための地域活動や営農の継続などの支援に取り組んでいきたいと考えています。

■矢板市の農村・農業の状況

本市は、北部に日光国立公園の一部である山林が連なり、中心部から南部一帯は肥沃な関東平野の一部として田園が広がっています。本市の総面積 17,046 ヘクタールのうち約 17.5%が農地として利用されており、全国平均の 11.7%を上回っています。



本市の農業の基幹作物は『水稻』であり、「コシヒカリ」や「とちぎの星」などの品種を中心に生産されています。また、県内 1 位の生産量を誇る『矢板のりんご』は長井地区を中心に生産されており、果実を樹の上で完熟させる“樹上完熟”が特徴です。



■農業や農家の支援事業

今年度から市では、農業をさらに推進するため、水稲から露地野菜（ネギ・タマネギ・サツマイモ）への転換や新規作付け、規模拡大にチャレンジする農業者に対して、生産資材や農業機械の購入経費の一部を助成する制度を創設しました。



昨年度に引き続き「地元産材活用支援事業」として地元産農畜産物を市立小中学校の学校給食に使用するなど、地域の農畜産業などに関わる事業者の支援や地元産品の良さを幅広く伝える事業に取り組みます。



■農村・農業を取り巻く課題

本市の農業就業人口は年々減少し、平成 27 年には 1,500 人を下回っています。また、農業者の減少や高齢化に伴い、栃木県内だけではなく全国的にも耕作放棄地が増加しており、本市においても同様の傾向が強まることを危惧しています。

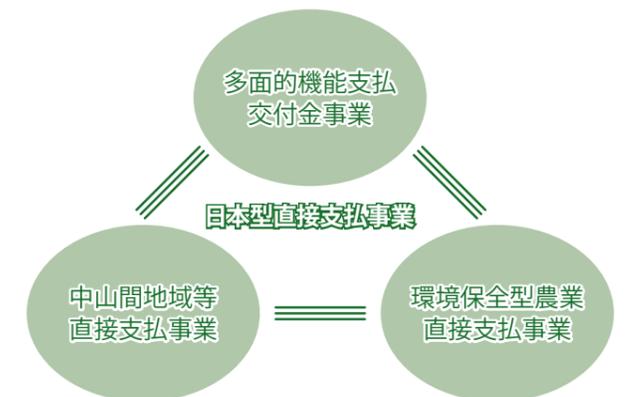


■日本型直接支払事業とは

農業・農村が持つ多面的機能の維持や発揮のために行う活動に対する支援事業で、「多面的機能支払交付金事業」、「中山間地域等直接支払事業」、「環境保全型農業直接支払事業」を併せて「日本型直接支払事業」と言います。

個人では難しくても地域の仲間と協力して農業をしたり、地域の自然環境を守る活動をしたりする団体などに、この事業を通して補助することで、農業の担い手の負担軽減と所得向上、地域の活性化につなげていきます。

次のページでは、各事業についての概要と取り組んでいる方を紹介します。



■多面的機能支払交付金事業

地域で行う農地維持活動や生産力向上を図る活動を支援します。

主な活動内容と交付単価

- ①農地維持活動：3,000円／10a
 - ・法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持など
- ②資源向上活動（共同）：2,400円／10a
 - ・水路、農道、ため池の軽微な補修、植栽による景観形成や生態系保全などの農村環境保全活動など
 - ・老朽化が進む水路、農道などの長寿命化のための補修など
- ※①と②に取り組む場合：5,400円／10a
- ▶現在、市内13組織が活用しています。



【取り組んでいる方】



大槻ほたるの郷環境保全会
会長 齊藤 好友さん

平成19年度から、大槻地区の環境保全を目的として花壇の植栽や草刈りなどの美化活動や、育成会と連携した生き物調査を中心に取り組んでいます。

この事業の活用を通して現在約80戸の農家などが地域活動に取り組むことで地域の環境保全のほか、さまざまな人が参加するきっかけがつけられることで地域コミュニティの形成や維持が図られています。

これからも、ほたるが生息する環境を残していけるよう力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。



■中山間地域等直接支払事業

中山間地域などの条件不利地域（傾斜地など）と平地とのコスト差（生産費）を支援します。

主な活動内容と交付単価

- 農用地（田畑など）および水路や農道の維持管理など
- ・急傾斜地の田の場合：21,000円／10a
- ・緩傾斜地の田の場合：8,000円／10a など
- ▶現在、市内8協定が活用しています。



【取り組んでいる方】



第一農場集落協定
代表 佐山 敬一さん

平成14年度から、第一農場地区の農家を中心とした現在32人の構成員で畦畔の草刈りや水路の泥上げ活動に取り組んでいます。

また、ほたるの生息環境を保全していくための活動や周辺林地の下草刈りなどを協力して取り組むことで、集落としての一体感が生まれるようになってきました。

この第一農場には、平成30年に日本遺産として認定された山縣有朋記念館がありますが、この偉人が開墾した農場跡の自然環境を、これからも力を合わせて守っていききたいと思います。



■環境保全型農業直接支払事業

地球温暖化防止や生物多様性保全などに効果の高い農業生産活動の実施に伴う追加的コストを支援します。

主な活動内容と交付単価

- ①有機農業（化学肥料、化学合成農薬の不使用）：12,000円／10a
- ②堆肥の施用（主作物の栽培期間の前後いずれかに堆肥を施用）：4,400円／10a
- ③カバークロープ（主作物の栽培期間の前後いずれかに緑肥を作付け）：6,000円／10a
- ※①～③に加えて、化学肥料・化学合成農薬の5割以上の低減と、国際水準GAPに取り組むことが要件となっています。
- ▶現在、10団体が活用しています。



栽培中のカバークロープの様子

【取り組んでいる方】



ワイワイファーム
代表 渡邊 幸一郎さん

平成28年度から、安沢地区を中心に現在6戸の農家で活動しています。

米の栽培時に使用する化学肥料や化学合成農薬を通常使用する量から5割以上低減する取り組みに加えて、米の収穫が終わった田んぼでカバークロープ用の麦を栽培することで、環境にやさしく安心安全な米づくりに取り組んでいます。

農家同士が協力して活動することで、情報交換を行う機会が増えたこともあり、この活動のすばらしさを実感しています。



■栃木県内における「日本型直接支払事業」の取り組み状況

